

行政調査報告書「エネルギー政策特別委員会」

平成 24 年 10 月 17 日(水)～19 日(金)

■山口県宇部市「環境政策について」

宇部市は、産・官・学・民が協働して、地球規模で環境問題や循環型社会の構築などに取り組んでいる。かつては、石炭のまちとして栄え、産業発展とともにばいじん汚染が深刻となり、全市民が一体となった「宇部方式」といわれる独自の公害対策の取り組みで克服に努めた歴史がある。



省エネ・地球温暖化対策としては、臨海企業群における省エネ・温室効果ガス削減の調査研究などを募り、優秀提案に対して研究開発費の助成をした。また、環境学習・教育にも積極的に取り組み、平成 23 年に「銀天エコプラザ（まちなか環境学習館）」をオープンし、各種講座などが企画されている。中心市街地の空き店舗を利用して設置し、中心市街地の活性化も狙っていたが、市や商店街などとの連携が不十分なこともあり、効果が十分に出ていないのではないかと感じた。本市においても、市民への啓発だけでなく、地域経済への波及効果にもつなげる活動が必要だと考える。

■関電エネルギー開発株式会社（大阪府大阪市）「中之島地区の河川水熱利用（地域冷暖房）について」



今回調査した施設は、大阪市内を流れる堂島川と土佐川に挟まれた中之島地区に位置し、その地形を活かし、河川水熱エネルギーをヒートポンプの冷熱源に 100%利用した、日本で唯一冷却塔のない地域冷暖房である。河川水温度は、外気温度に対して夏は冷たく、冬は暖かいことを利用して、効率よく複数の冷暖房を行うことができる。

本市では、今回調査したような河川水熱利用の地域冷暖房事業は、規模が大きすぎて導入できないけれども、取り入れた河川水を汚さない対策など、参考とすべき取り組みもあり、本市で計画されている明治用水を利用した小水力発電においても活用していくべきと感じた。

■カンポリサイクルプラザ株式会社「バイオガスシステムについて」

今回調査したバイオリサイクル施設は、生ごみなど有機性廃棄物をバイオガス化し、ガス発電や車両燃料に利用するというもので、京都市が進めているバイオガス利活用の取り組みであるバイオガス化技術実証研究プラントから本格稼働させたものである。課題としては、持ち込みの際に混入するビニール、食品トレーなどの除去で、処理機で処理しきれないものは手選別しているとのことだった。



本市でも、ごみ減量を推進する上で課題となっている生ごみの利用については、バイオガス技術の実用化が決め手となる。しかし、生ごみの分別や新しい施設の立地という解決すべき大きな課題が存在するので、今後も調査・研究を続けていくべきと感じた。